

教育センター便り

長野市教育センター
長野市大字鶴賀550番地2
TEL 026-226-7486
FAX 026-264-7570
責任者 今井 睦俊



よし、太陽にむかって行くぞ！
によきによき
あつ、花もさいている
もっと でかくなるぞ！

よし、太陽にむかって行くぞ！

によきによき

あつ、いい気持ち

ずぼっ！

春はまだかなあ

さむいなあ

くらいなあ

目をさました大豆

信里小学校 四年
半田 長門

そうそう！分かる分かる！！

～自己課題を持った、仲間との研修こそ
教師の成長と活力の源～
教育センター所長 今井 睦俊



昨年度、キUPⅡ（キャリアアップ研修Ⅱ）を受講した先生方の感想からたくさんの学びと感動をいただいたので、その中から一部を紹介いたします。

自己課題の大切さを確認していく先生方

自己課題を「自分の良さ・友の良さを認め合う学級～根拠を元に語れる子・友の話を聞く授業づくり～」と決め出したF小学校のT先生。授業公開や研修を通して、

自分はこうなっていきたいという展望が少し見えた。他の先生方の実践を聞いて来年の自分の研鑽に生かしたいと思った。一年間この課題に取り組むことはとても良かった。来年も課題を決めて取り組みたいと思った。

と、新たな自己課題設定への意欲を持っています。

また、自己課題を「生徒が即興で自分の伝えたいことを英語で話せる力を育成する指導と工夫」と設定したT中学校のI先生は1年の研修を終えて、

自己課題を意識して取り組むことができた一年だった。常に意識することで、少しずつ成果が生徒の姿となって表れていくことが実感できたこと、大きな学びとなった。

と、自己課題設定の意義とその成果を感じています。

仲間との共有を通して

新たな力を獲得していく先生方

研修講座の中でのグループワークや演習を終えて、先生方は次のような感想を寄せてくれました。

- ・『そうそう！』『分かる分かる！！』と思うことばかりで、大切なことが言語化できました。『これならできそう』とか、『こう考えればいいのか』と、発想の転換のきっかけになったので、明日からまた頑張ろうと思います。（T小学校・A先生）
- ・他校の先生の話から、『健康』『帰宅時間』『同僚との関係の悩み』というキーワードが出てきたとき、ハッとしました。私も同じことを実は悩んでいたし、同世代の苦しみ、葛藤が伝わってきて、4人で愚痴も共有し、少しすっきりしました。（K中学校のM先生）
- ・立場や年代が似ている先生方とお話できて、単純に楽しかったし、また頑張っていこうと思った。自己課題をさらに深く考え、今後も学び続けていきたいと思う。（S中学校・K先生）

と、自分自身の中では今まで気づけなかったことに気づいて概念化したり、語り合う中から明日への新しいエネルギーを見出したりしています。

教師像・生き方について考えた先生方

「現代の教育課題を理解した上で、どんな教師になればよいか、私自身の良さと課題を含め考えていきたい」とスタートしたS中学校のN先生は研修を終え、

教師を目指した原点に立ち返りつつ、自分が目指すべき教師像を考えることができた。子どもを大事にするという気持ちを大切にしつつ、これからは、学校や学年をマネジメントする立場になっていく身として、授業力を向上させたり（中略）学年経営などにも主体的に取り組んだりしていきたい。また、教師としての自分だけでなく、一人の人間として、仕事以外の場でも自分を磨き、生き方を語れるような存在でありたい。自分も周りも大切にできる、そんな人になれるよう励んでいきたい。

と、教師としての成長と一人の人間としてのこれからの生き方を見つめているように感じます。

「今年度一年間、自分の課題となっていることを見つめ、学び深める年にしようと決意を持ちました」とスタートしたS小学校のT先生は研修を終えた最後に、

あわただしく過ぎていく中で、自分は何を大切にしていきたいのか考える時間も無く過ぎていました。（中略）初心を思い出し、周りの先生方・ご指導いただいた先生方からのお話を聞いて、教師になることができて幸せだなと思います。

と、記しています。研修を通して仲間と共に自分自身を見つめ直し、教師という職業について改めて喜びややりがいを感じているように思われます。

今年もキUPⅡがスタートしました。スタートに当たって、所長講話の中でアリの運ばれた種から発芽して8年くらいで見事な花を咲かせるカタクリの話をしていただきました。この話を聞いたH中のM先生、「アリの種を運ぶとのこと、もしかしたら、今の自分がやっていることを生徒たちが受け取って、次へつなげて運んでくれる、そんな自分になりたい、10年目の研修で成長したい」と記し、新たな成長への意欲と決意をもって取り組もうとしています。

今年度も教育センターでは、研修・研究、教育相談等様々な面から先生方や子どもたちに軸足を置きながら、提案をしたり、支援したりしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

今年度の研修講座 ～学び続ける教職員を目指して～

今年度の研修講座は、教職員のキャリアステージに応じて指定している「指定研修」58講座（ユニット）、自らの力量向上を目指す「一般研修」46講座（ユニット）、合計104講座（ユニット）を構築しています。

指定研修では、キャリアステージや校務に応じて、マネジメント力の向上、幅広い力量の形成を目指し、研修を計画しました。

一般研修では「知・徳・体を育むための研修、マネジメント力の向上を図る研修、健康・安全・危機管理にかかわる研修、教育課題に対応した研修」を開講します。文部科学省の教科調査官、信州大学をはじめとする大学の先生方等、大勢の外部講師を招聘し、充実した研修講座となるよう計画しました。

また、各校で受講していただきたい重要な講座を「重点講座」として開講しますので、決められた参加方法に従って各校より受講していただきたいと思ひます。

講座申し込みは、一旦締め切りましたが講座開催の2日前まで可能です。（電話での連絡も併せてお願いします。）

また、期首面談後の追加申し込みは、受講者種別欄に、「面談後追加」を選択して入力いただければ、電話連絡等は必要ありません。

初任者研修 ～春期スタート研修～

令和5年度の初任者研修の「春期スタート研修」（4月11日）が、4年ぶりに参集にて行われました。

近藤 守 教育長職務代理者からは「初任の先生に期待すること」について講話をいただきました。



【受講者の感想】

近藤先生のお話から、生徒の様子をよく観察して接することが重要であることを学んだ。生徒の変化に気づける教員になりたいと思った。近藤先生の生徒たちに「先生」として認められて、初めて「先生」になったといえるというお言葉を心に強く受け止めて、生徒に認められるように日々精進しようと思った。

また、「教育公務員として」、「教員としての礼儀マナー」等についての講義を通して、求められる使命や任務を理解し、目指す教師像を考えました。

【受講者の感想】

何より社会人として「時を守る」「場を清める」「礼を正す」ことを再確認した。「子どもの目の前にいる先生が一番の学習環境だということ」という言葉に重みを感じ、授業時間を守ることや、学習環境を整えることなど、全てが子ども達の見本になることを肝に銘じて、行動していきたい。

（佐藤 文博・両角 宏和）

理科教育センター

本年度は、下記の学習、教職員研修、支援を行っています。

1 理科教育センター学習

6年生の学習は、学級毎に1時限80分の授業を3時限行います。3時限のうち2時限は実験室で観察実験授業、1時限はプラネタリウムで天文授業を行います。観察実験授業は、8種類の授業の中から、各小学校が選んだ2種類の授業を行います。また、プログラミング学習の授業準備を進めていきます。学級担任（理科専科）の先生方には事前に学習指導案をお送りして、授業内容を理解していただき、サブティーチャーとして一緒に授業を進めていただきます。

4年生の天文学習は、希望した小学校がプラネタリウムを使用して、原則3学期に行います。1時限70分の授業です。

教育支援センター（昨年度までの中間教室）の理科学習は市内教育支援センターの皆さんが理科教育センターに来て行います。中学生が多いため、6年生の学習をベースにして、中学の学習内容を加味した観察実験の授業です。春と秋の年2回行います。

2 理科研修講座

市の教育センター研修講座として行います。受講者の自己課題やニーズに沿った研修ができるように、講座の内容を工夫していきたいと考えています。ふるってご参加ください。

3 理科教育に関する学習支援

「しなのき派遣」により、理科室の整備、薬品庫の管理、教材教具の製作等、理科教育に関すること全般のお手伝いをします。また、先生個々の疑問や課題を解決するための講習（個別講習）を行います。電話でご相談ください。

教材の提供（ハウセンカ・オシロイバナの種子、ホテイアオイ、メダカ、ミドリムシ、ゾウリムシ、ミドリゾウリムシ、火山灰、小学3年種子セット、オオカナダモ等）と観察実験器具の貸し出しを行います。（小中別の貸出備品一覧表を第1号の理科教育センターだよりに添付して送信済みです。）

4 理科学習についての情報発信と連携

「理科教育センターだより」、「星のたより」を発行して、教材や指導方法、その時々の特ピックを紹介して、学校の理科学習に生かせるようにしていきます。

学校現場のニーズに応える支援に努めてまいります。今年度も理科教育センターをご活用ください。

（中野 潔）

教育研究委員会

「第三期しなのきプラン(2021～2023年度)」と長野市の教育課題を踏まえ、共通テーマを「自学自習の資質能力の育成」とし、協働的な学びや個別最適な学びを視点に、ICTの活用を図りながら、自学自習の資質能力を育む実践的な研究に取り組みます。

委員は、自己課題を設定し、上記視点から具体的な児童生徒の自学自習の資質能力を明らかにし、その成果を「センター便り」や「長野市の教育」で市立小・中学校に発信したり、研修講座で実践発表したり、授業動画をポータルサイトに掲載したりして市内各学校の教員研修で活用できるようにする予定です。



(写真は今年の公開授業の様子)

令和5年度は全ての委員会が長野上水内教育会との共同研究となり、研究成果を共有するとともに、成果の普及と活用の強化をはかってまいります。

各委員会のねらいと世話係、委員

□代表 ◇世話係校長 ◆世話係教頭

◎委員長 ○副委員長

◆道徳教育研究委員会

一人一人の子どもが自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深める実践的な研究を行います。

- ◇松谷かおる(牟礼小) ◆白田瑞希(浅川小)
 ◎月岡恵理(篠ノ井東小) ○塚尾誠貴(市立長野中)
 ・山田 大(寺尾小) ・六浦悠希(戸隠小)
 ・中村直樹(東部中) ・宮澤理実(松代中)
 ・北村香織(大岡中)

◆教科研究委員会

ICTを活用しながら、「学びの意味を実感できる協働的・探究的な学びの充実」や「知識・技能の定着を図る学びの最適化」について自己課題に基づいた実践的な研究を行います。

<国語科研究委員会>

- ◇千野布美子(長野中) ◆依田 学(古里小)
 ◎堀内優子(市立長野中) ○吉川 萌(小川小)
 ・大輪美香(芹田小) ・中村円香(篠ノ井西小)
 ・若林悠実(昭和小) ・塚田直昭(柳町中)
 ・樋口達也(櫻ヶ岡中)

<社会科研究委員会>

- ◇加藤善彦(綿内小) ◆新家 肇(山王小)
 ◎中村広登(市立長野中) ○小田切洋輔(長沼小)
 ・相馬一成(城山小) ・永渡大貴(若槻小)
 ・池田 遼(東部中) ・横田直都(犀陵中)
 ・半藤有紀(小川中)

<算数・数学科研究委員会>

- ◇櫻井清志(城東小) ◆吉川 豪(戸隠小)
 ◎太田裕一(東部中) ○秋山佳樹(川田小)
 ・和田聖国(古牧小) ・須田英幸(緑ヶ丘小)
 ・戸島雄司(裾花小) ・小林沙織(広徳中)
 ・藤本健史(市立長野中)

<理科研究委員会>

- ◇寺島 努(松ヶ丘小) ◆下條 陽子(鍋屋田小)
 ◎小坂和也(川中島中) ○田中英美(昭和小)
 ・齋藤有人(緑ヶ丘小) ・小玉泰明(三陽中)
 ・山越雅仁(篠ノ井東中) ・成田剛真(市立長野中)

<外国語活動・外国語科研究委員会>

- ◇嶋田勝彦(櫻ヶ岡中) ◆高木 淳(北部中)
 ◎柳澤恵理子(市立長野中) ○清水 愛(川中島中)
 ・宇野田俊希(篠ノ井東小) ・上原茉莉(豊栄小)
 ・海沼 香(柳町中) ・湯澤成実(飯綱中)

<体育・保健体育科研究委員会>

- ◇三ッ石誠司(松代小) ◆柳澤 誠(篠ノ井西小)
 ◎村松崇志(篠ノ井西小) ○渡邊啓介(鍋屋田小)
 ・小林祐太(柳原小) ・山本一博(裾花中)
 ・山本尚毅(信州新町中) ・古平恵里(信濃小中)
 ・大野高志(市立長野中)

委員は、それぞれ授業公開を行います。長野市教育センターの研修講座において、初任研(2年次)、キャリアアップI・IIの研修となる授業もあります。大勢の先生方に参観していただきたいと思います。
 (宮澤 剛彦)

教育相談室から ～「判断報告書」に目を向けると～

今年度も就学相談が始まりました。言うまでもなく、就学相談は困り感のあるお子さんの適切な学びの場を探っていくのが使命です。今回は相談を受ける側である教育相談室で普段感じていることやお伝えしたいことを記してみます。

就学相談は多くの場合「判断報告書」というかたちで終結をみます。この報告書にはご存知のように「まとめ」という欄があります。それはA「学習の困難さ」B「改善への意欲」C「特別な教育的手立てへの切望」、そしてそれらの総括の部分から構成されて総合的判断に導くという建付けになっています。以降、AとBについて述べてみます。それというのも、AとBは困り感のあるお子さんのとらえ方や支援の大切な視点でもあると思うからです。

まずAについてです。「学習の困難さ」の奥にある「困り感」は、主に「個人因子」と「環境因子」という2つの要素から生起すると考えられています。「個人因子」とは所謂「特性」を指します。この特性については日常の姿やスクリーニング・医療情報等に基づいて日々精緻に掘り下げられていると思われれます。学校からの資料にもその子の特性が目浮かぶように記述され、またそれへの対応も含めて学ばせていただいております。

一方「環境因子」とは、例えば教室環境、授業づくり・学級づくり、さらには家庭状況まで示すこと

もあるでしょう。少し教室を整えたり授業の組み立てを変えたりするだけで気になっていたお子さんが落ち着いた、ということは我々がよく経験するところですが、相談員の授業参観は原則1回ですので、実際「判断報告書」で学級のことにはふれるのは難しいのですが、特性だけでなくその子が毎日身を置いている教室環境や毎時間の授業の重要性にもあらためて思いを致したいところです。そのキーワードが正にユニバーサルデザインです。

次にB「改善への意欲」についてです。外側からの支援は大切ですが、最終的には程度の差はあれ本人が自覚（自己理解）し自分から改善していこうとする姿勢が必要になります。自分の困り感、つまり自分の課題に対して直接的な改善の意欲をもつケースは少ないと思われれますが、しかし、まずは私たちがその子の日常の考え方や行動の中に本人の課題についての自覚につながる姿はないだろうかと探るところから始まるのではないのでしょうか。（私たちがその動機づけや醸成をするのは勿論のことです。）同時に、実はそのことが子どもたちのよさを探していることに他ならないのではないのでしょうか。

これらのことをお互いが共有し、日々の子どもたちのとらえの参考になれば幸いです。

（大井 透）

職員と直通電話等の紹介

令和5年度の職員と直通電話番号等をお知らせします。ご活用ください。

担 当	職 員	電話 (T) / fax (F)
総務担当	所長：今井睦俊 総務担当主任：中村博幸 職員：清水和彦 唐澤文子	T 226-7486 (代表) F 264-7570 (代表)
研修・研究担当	主任指導主事：佐藤文博 指導主事：両角宏和 小林由起子 大上みどり 中澤康匡 宮澤剛彦 丸山拓磨 (兼務)	T 223-0070 F 223-0097
理科教育センター	指導主事：中野 潔 池田淑恵 早川和仁	T 284-4490
就学相談担当	主任指導主事：北沢浩美 指導主事：大井 透 中澤 寛 小林治雄 池上昭子 村田章子 小平直司 小出まゆみ 櫻井真治 小尾昭人	T 264-6546 228-0950 F 226-7509 T/F 226-7509

編集後記

令和5年度がスタートして2ヶ月が経過しました。5月8日からは、新型コロナウイルス感染症に伴う行動制限等も大幅に緩和され、人々の動きも活発になってきました。

コロナ禍にあって、オンライン等を活用した研修などもかなり定着してまいりました。

今後もオンライン等を活用しながら、更に、業務を充実させていくことができるよう努めてまいります。

本年も1年間よろしくお願いたします。